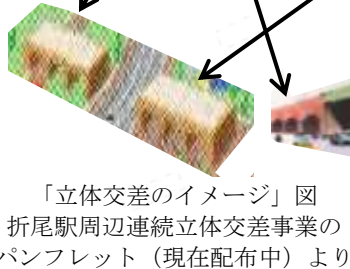


南口駅前広場（赤煉瓦アーチ高架橋）

北九州市の計画では、西鉄電車赤煉瓦アーチ高架橋を「6連で活用」する案もありました。折尾地区総合整備事業で、誰もが訪れたい街として、素敵に生まれ変われます！！



取り壊された3連の赤煉瓦高架橋は、場所の記憶として、保存している再生赤煉瓦を活用し、地上絵（当初9連）として残して欲しい。



「立体交差のイメージ」図
折尾駅周辺連続立体交差事業の
パンフレット（現在配布中）より



「オリオンプラザリニューアル構想」図
北九州市都市計画課（平成13年）より

災害時の避難場所を多目的複合施設として活用

- 公園は、災害時の避難場所として活用するため、すぐそばに災害本部が必要となる。
 - 普段は、多目的複合施設（トイレ・休憩所・食事のできる商業施設等）として活用する。
 - 赤煉瓦アーチ高架橋3連の上は、多目的複合施設の2階部分とつなぎ、南口駅前広場を一望することができるテラスとして活用する。
- ※ねじりまんぼ（アーチの部分が斜めのトンネル／日本最大級）と、普通のトンネルを一緒に見ることができるのは、折尾のみ。（日本唯一！）土木史の教科書的存在といわれている。

◆折尾の先人の熱き思いが、奇想天外な発想を生み、「日本初」「日本唯一」「日本最大級」のものを創り出しました。水運の「堀川運河」、陸運の「折尾駅」「西鉄電車」があったことから交通の要衝となり、日本近代化産業を支えました。東西南北から、人・物・文明が「折尾」で「交差」し、人が集まり、公共施設や学校が集中し、街はにぎわいました。

◆折尾駅周辺は、折尾地区総合整備事業で大きく様変わりします。折尾の誇りである「折尾の歴史」を次世代に活かしていける街にするのが、私たちの役目だと考えます。特に、折尾は学生の多い街です。感性豊かな時期を折尾で過ごす学生たちに、本物の歴史遺産を見てもらい、折尾の先人の熱き思いや知恵を肌で感じ、自分の中の熱き思いを発見し、日本の将来に役立ててもらいたいと願います。

各々がばらばらに建物を建て始めると、街全体の魅力が無くなり、結果、集客も望めません。調和のとれた街並みを守るためにも、景観法などを考慮して欲しいと思います。